

## 勝田池（かつたいけ）

位置図



### 諸元

貯水量	382	千m <sup>3</sup>
満水面積	16.4	ha
受益面積	76.6	ha
堤高	5.7	m
堤長	1,351	m

勝田池（三豊市豊中町）は国市池（-同- 高瀬町）と道を隔てて隣に位置し、国市池とともにオニバスなど貴重な自然を残すため池です。

勝田池はもともと、明暦3年（1657年）に「平屋池」として構築されました。平屋池は、丸亀城下の商人と思われる平屋三左衛門が、郡奉行に願い出て、藩普請として築いたという記録があります。当時は、各藩とも財政の基礎を固めるため、資力のある商人に新田を開かせ、代わりに年貢を取るという「町人請負新田」という方法がとられており、それによりため池が築かれたことがわかります。

平屋池が出来てから7年目の寛文2年（1662年）、この地方は大干ばつに見舞われました。その翌年、京極丸亀藩主の命により、時の郡奉行勝田五郎兵衛が、平屋池を取り囲むようにして増築し、この「勝田池」を完成させたと「勝田池之碑」に記されています。こうして平屋池は、寛文6年（1666年）勝田池の完成とともに水没することとなりました。この増築後にも大干ばつと増築を繰り返しますが、元禄8年（1695年）に現在の規模となりました。

この池には、「ガッソ」と呼ばれる水利慣行が残されています。旧平屋池の中に標石があるのですが、水不足で池の水が減るとこの標石が現れます。すると、かつての平屋池から水を受けていた田んぼの人たちが、平屋池の堤防があった所に土俵を積み、自分たちの田んぼ用に「残し水」を確保するというものです。築造当時の歴史に基づく珍しい水利慣行です。

この勝田池、築造の時、高瀬町の岩瀬池と大きさを競い合って勝ったので「勝田」、岩瀬池は「そうは言わせじ」と「岩瀬」と名付けられたという伝説も伝えられています。



勝田池